

## 熊本大学学術リポジトリ

### Kumamoto University Repository System

Title	熊本大学三十年史 : あとがき
Author(s)	熊本大学30年史編集委員会
Citation	熊本大学三十年史: [ 1 ] -3
Issue date	1980-10
Type	Book
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/8164">http://hdl.handle.net/2298/8164</a>
Right	熊本大学

## あ と が き

「熊本大学30年史」の編集を終えるにあたり、編集の経過を略記し、あわせて関係者各位に対し深甚の謝意を表したいと思う。

30年史編集の発議は、昭和49年春、当時の黒田学長によってなされ、同年5月、熊本大学30年史編集準備委員会（委員長 栗崎了法文学部教授）が発足した。同委員会は翌年6月岳中学長に編集および刊行の大綱について答申、第348回評議会において、部局長会議の統括の下で、その準備をすすめることが確認された。7月、部局長会議は、(1)54年開学記念日までに刊行する、(2)編集室を附属図書館内に設ける、(3)体裁は『岡山大学20年史』に倣い通史篇と部局史篇の2部に分ける、(4)準備費として当面50万円を充てる、等の具体的方針を定めた。しかし編集委員会と編集室の設置が正式に決定されたのは昭和52年1月であった。第1回編集委員会で私が委員長に選出され、委員会要項にもとづき編集室長を兼ねることになったため、早速専従の編集室員に板楠和子、事務補佐員に柳田恵里子の両氏を採用することとし、承認をえた。また部局長会議は、設備・備品・消耗品は校費で、人件費・調査旅費は熊本大学振興会の援助を求めることとし、それぞれ評議会および振興会理事会の承認がえられ、6月1日編集室が図書館2階に開室された。間もなく編集委員会内に小委員会を設けることになり、委員長の外森山委員・鳥飼委員が小委員となった（のち首藤委員が加わり、鳥飼委員は転出のため後任の荻委員に代った）。

以来、各部局では独自に編集委員会を設けて部局史の編集作業にかかり、編集室では学内外の資料の収集作業をすすめていくことになった。7月11日、編集委員会は、①通史篇は開学後10年ほどに重点をおき、以後については事実の経過説明に止める、②資料については出来るだけ広範に集め、統一的形式で保存出来るよう整理する、という方針を決定した。

明けて53年1月、編集委員会は、①編集体制の出発が事実上1年おくれになったことから、発行日標を55年の開学記念日までと修正する、②それに伴ない30年史に盛り込む内容を、開学以来満30年に相当する54年5月31日までとする、③部局史は53年前半に各学部で仕上げ、その後編集室と学部編集委員との間で調整作業を行なう、④通史は54年度中に成稿する、という方針を確認した。こうして55年4月まで、資料収集・執筆・調整の作業が続けられた。この間編集室では開学直後の事情と黒髪キャンパス統合問題、医学部および附属病院の戦災復興問題等について、それぞれ関係の旧職員を招いて座談会を開催した。

一方刊行については、前述のように評議会で刊行の方針は一応決っていたものの、具体的体制づくりはおくれていた。54年1月、創立30年記念事業会が作られたが刊行計画は具体化せず、55年2月にいたり、ようやく学長を委員長とする刊行委員会が発足した。そして4月、刊

行を第一法規出版株式会社に印刷刊行業務を委託することが決定され、規格・刊行日・価格等についての覚書がとり交された。それに呼応して編集室では原稿の最終的整理をすすめ、5月中旬に部局史篇、6月中旬に通史篇を出稿した。

次に成稿にいたる編集作業の実際について記しておく。通史に関しては、末尾の「将来の構想」を岳中学長に執筆いただいたほかは、準備委員会作製の目次原案を目安に、大部分を板楠編集室員が執筆し、森山、首藤、工藤の3小委員が補筆削除等の調整作業にあたり、学長の校閲を得た。

一方部局史篇は、各部局で編集された粗原稿を小委員で検討し、若干の調整をお願いしたが、原則として各部局の編集方針を尊重した。従って当初の各部局への枚数割当が必ずしも適切でなかったこともあって、やや不揃いのそしりを免がれ難いが、それだけ各部局の特長をうかがうことも出来るであろう。

なお、通史篇はそれだけで一応熊大30年の歩みをたどれるよう意図したため、各部局史との間に若干の重複を免がれえなかった。また、取上げるべくしてふれえなかった問題も少なくないであろう。それらは50年史なり70年史なりに期待したいと思う。しかし今回の30年史編集の一つの目的である資料の収集と保存については、かなりの程度まで所期の目的を達し得たものと思う。それらは附属図書館に移管され将来に備えられることになろう。

編集作業にかかってから足かけ4年、多くの方々のご協力を得た。鰐淵初代学長をはじめ旧教職員の方々、高野作氏ら期成会関係者そして本学卒業者のほか、戦後教育資料の収集に多大のご協力をいただいた内田糺先生（国立教育研究所）をはじめ、直接本学と関係のない方々も少なくない。これらの方々については、本来御芳名を記し謝意を表すべきであるが、何分多数にのぼるので、万一の遺漏をおそれ差控えさせていただくことを御諒承願いたい。なお、多くの貴重な写真を提供いただいた熊本日日新聞社をはじめ、資料収集についてご協力いただいた諸機関に対しても厚くお礼を申しあげる。

また4年間にわたる編集作業を財政的に支えていただいた熊本大学振興会、物心両面にわたり多大のご協力をいただいた前身校および各学部同窓会、そして学内において種々尽力をいただいた岳中学長および各部局長、各部局編集委員はじめ関係教職員各位に深甚の謝意を表する。

さらに専心30年史の資料収集・執筆に当った板楠・柳田両氏、そして終始編集・刊行作業の円滑な進行に努力された庶務課学事調査係の各位の労を多としたい。

さいごに、当初の予定より大幅な頁数の超過にかかわらず、受託条件を変更することなく刊行業務を遂行していただいた第一法規出版株式会社の好意ある配慮に感謝する。

昭和55年7月

熊本大学30年史編集委員長 工藤 敬一

## 熊本大学30年史編集委員会委員名簿

所 属	職 名	氏 名	任 期	備 考
法 文 学 部	教 授	工 藤 敬 一	昭和52. 1. 13～ 54. 3. 31	
文 学 部	教 授	工 藤 敬 一	〃 54. 4. 1～ 56. 3. 31	
教 育 学 部	教 授	森 山 恒 雄	〃 52. 1. 13～ 56. 3. 31	
法 学 部	教 授	石 塚 杉 男	〃 54. 4. 1～ 56. 3. 31	
理 学 部	教 授	松 村 久	〃 52. 1. 13～ 56. 3. 31	
医 学 部	教 授	松 原 高 賢	〃 52. 1. 13～ 56. 3. 31	附属病院教授であるが 医学部代表として選任
薬 学 部	教 授	村 上 誠 懋	〃 52. 1. 13～ 56. 3. 31	
工 学 部	教 授	川 崎 頼 雄	〃 52. 1. 13～ 53. 3. 31	
〃	教 授	安 河 内 一 夫	〃 53. 4. 1～ 56. 3. 31	
教 養 部	教 授	首 藤 基 澄	〃 52. 1. 13～ 56. 3. 31	
体質医学研究所	教 授	鹿 子 木 敏 範	〃 52. 1. 13～ 56. 3. 31	
附 属 病 院	教 授	中 村 郁 夫	〃 52. 1. 13～ 56. 3. 31	昭和54. 4. 1より医療 技術短大部教授
養護教諭養成所	教 授	伊 津 野 保	〃 52. 1. 13～ 53. 4. 15	
〃	教 授	河 田 真 雄	〃 53. 4. 16～ 56. 3. 31	昭和54. 4. 1より教育 学部教授
事 務 局	庶務課長	鳥 飼 光 俊	〃 52. 1. 13～ 54. 3. 31	
〃	教 授	萩 弘	〃 54. 4. 1～ 56. 3. 31	
学 生 部	学生課長	萩 行 夫	〃 52. 1. 13～ 54. 3. 31	
〃	学生課長	弘 津 章 市	〃 54. 4. 1～ 55. 3. 31	
〃	学生課長	佐 藤 武 範	〃 55. 4. 1～ 56. 3. 31	
図 書 館	事 務 長	山 口 正 人	〃 52. 1. 13～ 53. 3. 31	
〃	整理課長	葉 室 森 男	〃 53. 4. 1～ 56. 3. 31	昭和53. 4. 1～54. 3. 31事務長, 54. 4. 1よ り整理課長
医療技術短期大 学部	教 授	原 田 隆	〃 52. 9. 22～ 56. 3. 31	

# 熊本大学30年史

昭和55年10月30日 発行

編集者 熊本大学30年史編集委員会

発行者 熊 本 大 学  
熊本県熊本市黒髪2丁目39-1

印刷者 第一法規出版株式会社  
東京都港区南青山2丁目11-17